



8歳男子の部 準優勝 多久田和馬

国際大会での優勝経験もある怪物が試合場で暴れまわった。

決勝までの全試合で一本、技ありをマーク。
しかも常に下段、中段での技でダメージを与えることにもこだわった。

その超攻撃的なスタイルの裏には5月に行なわれた横浜カップでの初戦敗退がある。

攻撃を出し続ける相手と対戦した多久田は、
相手の攻撃を確実に防御しカウンターを入れたが、
消極的と見られたのか判定で相手選手に旗が上がってしまう。

作戦通りに試合を進めながらの敗退に困惑した多久田だが、
すぐに気持ちをリセットして全国大会に照準を合わせた。

相手が動けないほどダメージを与えないと勝てない。

相手を倒さなくては勝てない。

今まで以上に鬼気迫る稽古を重ねた多久田にとって、
今回の一本、技ありを量産したことは当然のことだったのだろう。

すでに関東大会への出場も決定している多久田は早くもハードトレーニングで
自分を追い込み始めた。

常に相手を倒すことにこだわった組手はこれからも見る者を魅了していくことだろう。

11歳男子40キ口超の部 優勝 小嶋瑠久

横浜北支部の少年部を牽引してきたリーダー格がようやく日本の頂点に輝いた。

もともと横浜北支部は試合志向の少年部が少なかったが、小嶋は入門当初から極真空手の試合に憧れて稽古を重ねてきた。

そしてようやく試合に出場した小嶋はめきめきと実力を身につけて、地方大会での優勝を重ねていく。

だが実力を身につけて見えてきたものは全国レベルの高い壁だった。

善戦はするもののあと一步勝利に届かない。

自分は日本一にはなれないのかと悩んだ。

そんな中、関東大会で念願の初優勝を遂げる。

全国のトップレベルが出場する関東大会で優勝することは、全国大会で優勝することとほぼ同一の価値があることを知っている小嶋は自分の力が全国に通用することを知った。

自信をつけた小嶋は今大会で実力を十二分に発揮。自分より15キロ重い相手や国際大会王者と対戦しても、一步も引くことなく勝利。長年追いかけて続けた日本一の座を手に入れた。

だが小嶋は知っている。追ってくるものの恐ろしさを。

自分がそうだったように今度は全国の強豪が小嶋に勝つ為に稽古を重ねてくる。油断している暇など無い。

小嶋にとって王座を守る、果てしない戦いが始まった。

✕ 閉じる